様式第１

**受付番号：**

平成　　年　　月　　日

全国中小企業団体中央会

会長　　大村　功作　　殿

大分県地域事務局

会長　　髙山　泰四郎　殿

　　　　　　　　　　　　　　　　　　申請者住所（郵便番号、本社所在地）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　氏　　　名（名称、代表者の役職及び氏名）　　　　　　㊞

　　　　　　　　　　　　　　　　　　※　連携体で申請を行う場合は連名で記載

平成２７年度補正ものづくり・商業・サービス新展開支援補助金に係る

補助金交付申請書

　　ものづくり・商業・サービス新展開支援補助金交付規程第５条第１項の規定に基づき、上記補助金の交付について下記のとおり、補助金の交付を受けたく関係書類を添えて申請します。

記

１．事業計画名

　※　別紙「（２）事業内容「１．」の事業計画名を記載してください。

２．補助事業に要する経費、補助対象経費及び補助金交付申請額

（１）補助事業に要する経費 円（税込み）

　　　補助事業に要する経費 円（税抜き）

（２）補助対象経費 円（税抜き）

（３）補助金交付申請額 円（税抜き）

　＜内　訳＞　　※　連携体でない場合、内訳欄を削除してください。

＜幹事企業＞

　　　補助事業に要する経費 円（税込み）

　　　補助事業に要する経費 円（税抜き）

　　　補助対象経費 　　　　円（税抜き）

　　　補助金交付申請額 　　　　円（税抜き）

＜事業実施企業１＞

　　　補助事業に要する経費 円（税込み）

　　　補助事業に要する経費 円（税抜き）

　　　補助対象経費 　　　　円（税抜き）

　　　補助金交付申請額 　　　　円（税抜き）

＜事業実施企業２＞

　　　補助事業に要する経費 円（税込み）

　　　補助事業に要する経費 円（税抜き）

　　　補助対象経費 　　　　円（税抜き）

　　　補助金交付申請額 　　　　円（税抜き）

※　以下、必要に応じて追加してください。

３．補助事業の内容及び補助事業に要する経費の配分

　　別紙　補助事業計画書のとおり

（添付書類）

　①　平成２７年度補正ものづくり・商業・サービス新展開支援補助金に係る補助事業計画書（別紙）

　②　クラウド利用費の内容（補助事業計画書の別紙）

　③　その他全国中央会及び大分県地域事務局が必要と認める書類

（注１）申請書の用紙サイズは原則としてＡ４版の片面印刷とし、添付書類とともに提出してください。

（注２）上記の提出に加えて、申請書の内容が全て入力された「ｗｏｒｄ」のファイルを、電子媒体（ＣＤ－Ｒ）に保存のうえ、１部提出してください。

（様式第１の別紙－①：革新的サービス）

**補助事業計画書**

（１）申請者の概要等

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| １．申請者の概要

|  |
| --- |
| 企　業　名（法人番号）：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（　　　　　　　　　） |
| 代表者の役職及び氏名：　 |
| 住　　　所：（〒　　　　　－　　　　　） |
| 電話番号：　 | FAX番号： |
| 補助事業の実施が本社の所在地と異なる場合の実施場所（革新的サービスの開発、提供の拠点となることが条件です）住　　　所：（〒　　　　　－　　　　　）事業所名：（本社住所ではなく本欄の住所で事業を行う場合は、本欄記載の都道府県の地域事務局に事業計画書を提出してください） |
| 電話番号：　　 | FAX番号：　 |
| 【今後の連絡先】担当者の役職及び氏名：　 |
| 担当者のﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ：　 |
| 資本金(出資金) | 　　万円　 | 従業員 | 　　人　 |
| 主たる業種（日本標準産業分類、中分類） | 　 | 創業・設立日 | Ｍ・Ｔ・Ｓ・Ｈ 年 月 日 |

 |
| ※　法人の場合は、法人番号を記載してください。法人番号がない場合（個人事業主等）は「なし」と明記してください（マイナンバー（個人番号）は記載しないでください）。　２．株主等一覧表　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（平成　　　年　　　月　　　日現在）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 主な株主又は出資者（注）出資比率の高いものから記載し、大企業は【　】に◎を記載してください。６番目以降は「ほか○人」と記載してください。 | 株主名又は出資者名 | 所在地 | 大企業注.P５参照 | 出資比率(％) |
| ① |  |  |  【　　】 | 　　　％ |
| ② |  |  |  【　　】 | 　　　％ |
| ③ |  |  |  【　　】 | 　　　％ |
| ④ |  |  |  【　　】 | 　　　％ |
| ⑤ |  |  |  【　　】 | 　　　％ |
| ⑥ | ほか　　　　　　　　　人 | 　　　％ |

 |
| 　３．役員一覧（監査役を含む。別紙として添付することも可能です。） |
|

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 役職名 | 氏名 | フリガナ | 生年月日 | 男女別 | 会社名注.他社と兼務の場合 |
| 昭和・平成 | 年 | 月 | 日 |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |

 |
|

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 平成　　年　月～平成　　年　月 | 平成　　年　月～平成　　年　月 |
| ①売上高 |  |  |
| ②経常利益 |  |  |
| ③当期利益 |  |  |

４．経営状況表（注）直近２期分の実績を記載してください。　　　　　　　　　　　　　（単位：百万円） |
|  |

（２）事業内容（枠に収まらない場合は、適宜広げてください。複数ページになっても結構です）

|  |  |
| --- | --- |
| １．事業計画名（３０字程度） | 本事業で取り組む対象分野となる業種（日本標準産業分類・中分類） |
| ２．事業計画の概要（１００字程度） |
| ３．対象類型 |
| 中小サービス事業者の生産性向上のためのガイドラインとの関連性（該当する項目に☑を付してください。複数選択可）○付加価値の向上□新規顧客層への展開　　　□商圏の拡大□独自性・独創性の発揮　　□ブランド力の強化　　　□顧客満足度の向上□価値や品質の見える化　　□機能分化・連携　　　 □ＩＴ利活用〈Ⅰ〉○効率の向上□サービス提供プロセスの改善　　　　□ＩＴ利活用〈Ⅱ〉 |
| ４．事業類型（どちらか一方に☑を付してください） |
| 一般型　　　　　　　　□一般型 小規模型　　　　　　　□試作開発等　□設備投資のみ（どちらかに☑）高度生産性向上型　　　□ＩｏＴ　□最新モデル（どちらかに☑） |
| ５．事業の具体的な内容 |
| その１：革新的なサービスの創出・サービス提供プロセスの改善の具体的な取組内容※　高度生産性向上型の場合は、ＩｏＴ又は最新モデルを用いてどのように生産性を向上するかを具体的に説明してください。導入する技術等について　　※　技術導入費を計上する場合、記載してください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 　技術の指導者（所属先名称及び役職・氏名） | 導入する技術の概要 | 技術指導者の専門分野 |
|  |  |  |

専門家指導について　　　　※　専門家経費（謝金）を計上する場合、記載してください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 専門家（所属先名称及び役職・氏名） | 指導の概要 | 専門家の専門分野 |
|  |  |  |

委託先の名称及び内容について　　※　委託費を計上する場合、記載してください（小規模型の「試作開発等」のみ使用可）。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 委託予定先（名称・住所） | 委託する業務等の内容 | 委託予定期間 |
|  |  | 　年　月　日から　年　月　日まで |

知的財産権等について（小規模型の「試作開発等」のみ記載）　　※　知的財産権等関連経費を計上する場合、記載してください（小規模型の「試作開発等」のみ使用可）。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 取得予定技術の題名 | 知的財産権等の種類（該当する項目に○を囲んでください） | 取得予定技術の概要 |
|  | 特許権・実用新案権・意匠権商標権・国際規格認定その他（具体的に　　　　） | ※　記入できなければ別紙に |

その２：将来の展望（本事業の成果の事業化に向けて想定している内容及び期待される効果）○概　要○事業計画（会社全体の計画を記載してください）

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 直近期末( 年 月期) | １年後( 年 月期) | ２年後( 年 月期) | ３年後( 年 月期) | ４年後( 年 月期) | ５年後( 年 月期) |
| ①売上高 |  |  |  |  |  |  |
| ②営業利益 |  |  |  |  |  |  |
| ③営業外費用 |  |  |  |  |  |  |
| 経常利益※１(②－③) |  |  |  |  |  |  |
| 伸び率（％）※２ |  |  |  |  |  |  |
| ④人件費 |  |  |  |  |  |  |
| ⑤減価償却費 |  |  |  |  |  |  |
| 付加価値額(②+④+⑤) |  |  |  |  |  |  |
| 伸び率（％）※２ |  |  |  |  |  |  |
| ⑥設備投資額※３ |  |  |  |  |  |  |
| 投資利益率※４ |  |  |  |  |  |  |

　※１　経常利益の算出は、営業外収益を入れません。　　　　　　　※２　伸び率は、直近期末を基準に計算してください。　※３　取得等をする設備の取得価額の合計額を記入してください。　※４ (②と⑤の２年後＋３年後＋４年後－(１年後×３))÷３÷(⑥の１年後)を４年後の投資利益率の欄に記入してください。　※５　創業まもなく、直近期末欄に記入ができない場合は、１年後以降の計画（見通し）額を記入してください。 |

（３）これまでに補助金又は委託費の交付を受けた実績説明（申請中の案件を含む）

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名称及び事業概要 |  |
| 事業主体（関係省庁・独法等） |  |
| 実施期間 |  |
| 補助・委託額 | 　　　　　　　　　　　　　　　　　万円 |
| テーマ名 |  |
| 本事業との相違点及び事業化・収益化の見込み |  |

（注１）本事業を含め、経済産業省その他の省庁等（各々に関連した特殊法人等の外郭機関を含む）による研究開発制度・事業（補助・委託額）において、申請時点から**「過去５年以内に実施済」又は「現在実施中」若しくは「現在申請中」及び「今後申請予定」**とされているもののうち、本事業計画と類似した事業内容（同一実施企業の関与又は同一の技術シーズを用いるなど）と思われるもの又はその恐れがあるものについて記載してください。

（注２）複数案件がある場合は案件ごとに本表を複製して作成してください。

（４）経費明細表　　※　連携体で申請を行う場合は、事業者ごとに作成してください。　　　　　　　　　　　　　　　（単位：円）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 経費区分（※は小規模の「試作開発等のみ使用可」 | A | B | B×2/3以内 | 　 |
| 補助事業に要する経費 | 補助対象経費 | 補助金交付申請額 | 積算基礎（A.税込み） |
| （税込み） | （税抜き） | （税抜き） | （税抜き） | 　 |
| 機械装置費（単価５０万円以上） | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 |
| 機械装置費（単価５０万円未満） | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 |
| 原材料費（※） | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 |
| 技術導入費 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 |
| 外注加工費（※） | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 |
| 委託費（※） | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 |
| 知的財産権等関連経費（※） | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 |
| 運搬費 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 |
| 専門家経費 | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 |
| クラウド利用費（※） | 　 | 　 | 　 | 　 | 　 |
| 合　計 |   |   |   |   | 　 |

（注１）費目を使用する場合、補助事業に要する経費欄、補助対象経費欄及び補助金交付申請額欄に数字を必ず記入してください

（０円不可）。また、未使用費目は削除して、行を詰めてください。

（注２）「一般型」「高度生産性向上型」については、設備投資が必要です。また、「機械装置費」以外の経費については、総額で

５００万円（税抜き）までを補助上限額とします。

（注３）設置場所の整備工事や基礎工事については、補助対象として認めておりません。

（注４）経費区分ごとに、事業に要する経費、補助対象経費、補助金交付申請額、積算基礎（補助事業に要する経費）を記入して

ください。

（注５）合計のみではなく、経費区分ごとに記載してください。

（注６）「補助事業に要する経費」とは、当該事業を遂行するために必要な経費を意味し、ここでは消費税を加算した税込み金額

と消費税を抜いた税抜き金額を併記してください。

（注７）「補助対象経費（税抜き）」とは、「補助事業に要する経費（税込み）」のうちで補助対象となる経費について、消費税を差し引いた金額を記載してください。なお、本事業で使用する汎用性があり目的外使用になり得るもの（例えば、事務用のパソコン・プリンタ・タブレット端末・スマートフォン及びデジタル複合機など）については「補助事業に要する経費（税込み）」となりますが、補助対象外であるため、「補助対象経費（税抜き）」にはなりません。

（注８）「補助金交付申請額（税抜き）」は、「補助対象経費（税抜き）」のうちで補助金の交付を希望する額で、その限度は、「補助対象経費」に補助率（２／３）を乗じた額（１円未満は切捨て）をいいます。

（注９）「経費区分」には上限が設定されているもの（外注加工費、委託費、知的財産権等関連経費）がありますのでご注意ください。

（５）資金調達内訳

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| ＜事業全体に要する経費調達一覧＞ |  | ＜補助金を受けるまでの資金＞ |
| 区　　　分 | 事業に要する経費(円) | 資金調達先 |  | 区　　　　分 | 事業に要する経費(円) | 資金の調達先 |
| 自 己 資 金 |  |  |  | 自　己　資　金 | 　 | 　 |
| 補　　助　　金交付申請額 |  |  |  | 借　　入　　金 | 　 | 　 |
| 借　　入　　金 |  |  |  | そ　　の　　他 | 　 | 　 |
| そ　　の　　他 |  |  |  | 合　　計　　額 |  | 　 |
| 合　　計　　額 |  |  |  |

　　　　　経理担当者の役職名・氏名

（注）補助金の支払は、原則として事業終了後の精算払いとなりますので、事業期間中、補助金相当分の資金を確保する必要があります。